

同時開催

文化庁事業「記念物 100 年展 2020」
～日本の記念物保護 100 年の取り組み～



吾人の
われら
プライド
ご覧あれ

観覧
無料

40代半ばごろの丸地古城

歴史を守れ!

丸地古城の挑戦

2020

9月19日土～11月8日日

休館日 月曜日(9月21日は開館)
開館時間 午前9時から午後5時まで
(入場は午後4時30分まで)

主催・問合せ先

豊橋市文化財センター
(TEL: 0532-56-6060 / FAX: 0532-52-2961)

TOYOHASHI CITY MUSEUM OF ART & HISTORY
会場 豊橋市美術博物館 2階展示室 1

豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)
<http://www.toyohashi-bihaku.jp/>



歴史を守れ!

丸地古城の挑戦

丸地古城(こじょう・本名・幸之助)は、明治19年(1886)に渥美郡東田村(現・豊橋市東田町)に生まれました。幼少期に豊川市小坂井町の川出直吉から菟足神社貝塚の出土品を見せられたことで、考古学への強い関心を抱きました。

丸地の名前を高めたのは、大正13年(1924)に発見された伊奈銅鐸を名古屋新聞豊橋支局長としてスクープしたことで、全国の考古学研究者が東三河に注目するきっかけを作りました。さらに戦前から戦中にかけては豊橋市議会議員として活躍し、戦後すぐに豊橋市役所の収入役に就任、豊橋市政を牽引しました。また、強烈な考古学への情熱と郷土愛を失うことなく、これが戦後の混乱期である厳しい時代の中で行われた、国史跡・瓜郷遺跡の発掘調査に結びつきました。

本展では、明治・大正・昭和の時代に、情熱をもって考古学と地域史の研究と発展に尽力し、政治家として市政に尽くした丸地古城の活動の軌跡を紹介します。



大正13年(1924)、丸地がスクープした、「伊奈銅鐸の発見」



昭和23年(1948)、豊橋市・大蚊里貝塚での発掘調査参加者。和島誠一や後藤守一、久永春男ら当時の錚々たる考古学者たちが集まる(右寄り中央の背広姿が丸地)

おもな展示品



瓜郷遺跡の出土品

- ・菟足神社貝塚 出土品
- ・磯辺王塚古墳 出土品
- ・瓜郷遺跡 出土品
- ・馬越長火塚古墳 出土品
- ・欠矢遺跡 出土品

【国指定重要文化財】

※すべて豊橋市教育委員会蔵

(展示期間 10/27 ~ 11/8)

よく知る講座「丸地古城と瓜郷遺跡」

日時 令和2年10月11日(日) ①10:00 ~ ②14:00 ~

会場 豊橋市美術博物館 講義室 **定員** 30人

講師 岩原 剛 **聴講料** 無料
(豊橋市文化財センター所長・展示企画者)

申込み 9/30(木)までに返信先明記の往復はがき(1枚4人まで)に聴講を希望する時間帯(①または②)、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、豊橋市文化財センター(〒440-0897 豊橋市松葉町3-1)に申込み。

※定員を越えた場合、抽選

会場案内



【交通案内】
JR・名鉄「豊橋」駅前より
市内電車に乗り、
「豊橋公園前」下車、
徒歩3分

主催
問合せ先

豊橋市文化財センター
(TEL: 0532-56-6060 / FAX: 0532-52-2961)